



土木施工管理技士

現場の先読み
ガーディアン

株式会社山崎組

入社10年目 32歳

K.S.さんに聞きました
どんな仕事？

大地と向き合い未来のインフラを動かす

道路や橋、造成地、河川など、街の土台となる工事をまとめる仕事です。地面の下や山の中、川の流れなど、見えない部分を読み取りながら、安全・品質・工程・コストを管理します。現場で起こる想定外に先回りして判断するまさに「先読みの司令塔（ガーディアン）」です。

見えない場所こそ主戦場

土木工事の多くは、完成すると見えなくなる部分が重要です。地中の配管、基礎、土の強さや水の動きなど、一度つくったら簡単には直せない場所を、責任をもって管理します。「完成したら隠れる仕事」が、街の安全を支えています。

先を読む判断力

地面の中は掘ってみないと何があるか分かりません。岩や古い構造物、水の湧き出しなど、現場では予想外のことが起こります。そのため、複数の対処法を考え、最適な方法を選ぶ判断力が求められます。経験がそのまま武器になる仕事です。



この仕事の
詳細をチェック！



K.S.さんが働く会社！

☑ 出前授業

☑ 個別質問

☑ 職場見学



千葉県茂原市下太田 1183-2 tel.0475-34-1211

<https://g-yamazaki.co.jp>

株式会社山崎組

千葉県を拠点に、道路や橋、造成などの土木工事から建築工事まで幅広く手がける地域総合建設業です。「質の追求」を理念に、徳と技を併せ持つプロフェッショナルとして、安全と信頼を積み重ね、地域とともに成長するものづくりを続けています。



デジタル化が進んでも
最後の判断は経験と知識で



仲間と声を掛け合いながら
作業を進めていきます



最新の重機には作業データが
入っていて作業を補助します

次のページで
さらに詳しく！

土木施工管理技士に聞いてみた!

仕事のリアル

地面の下から、未来を読み解く

土を掘り、測り、確かめる。完成後には見えなくなる場所にこそ、経験と判断力が問われます。小さな判断の積み重ねが、工事全体の安全と品質を左右します。

とある1日のスケジュール



資格で一段上の役割へ

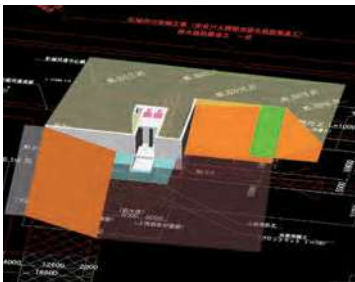
土木施工管理技士は国家資格です。資格取得で任される仕事の幅が広がり、大規模工事の中心を担う存在になります。会社の支援を受け、働きながらステップアップが可能です。

現場は山・街・海

勤務場所は工事現場が中心で、山の中や住宅地、都市部までさまざまです。自然と向き合う現場も多く、毎回違う景色と条件の中で仕事をするのが土木ならではの魅力です。

測量は未来を描く作業

測量機器やドローンを使い、地形を正確に把握します。それを元に工事後の完成イメージを3Dデータで可視化して共有します。そうすることで、工事の作業効率がアップし、若手も全体像を理解しやすくなります。



進化する工事現場

重機や測量機器には、GPSやセンサーが付いていて、どこをどれだけ掘るかを画面で確認できます。ゲームのナビのように作業を助けてくれますが、最後に決めるのは人です。状況を見て判断し、技術と経験で現場を進めます。

土木工事の最高峰は?

土木施工管理技士の最高峰の仕事には、海底トンネルなどがあります。自然条件が厳しい現場で、天気や地盤の変化を考えながら工事を進めます。こうした日本の土木技術は、世界でも高く評価されています。



ON STYLE

仕事のやりがいとは?

形に残り、使われ続ける誇り



自分たちが関わった道路や構造物を、誰かが毎日使っている。その事実が大きなやりがいになっています。完成後も長く残り続ける仕事だからこそ、責任と誇りを感じます。

OFF STYLE

プライベートは?

旅で頭をリセット

休日は家族を連れて車で出かけることが多いです。全国各地の景色やご当地グルメを楽しみ、家族サービスができることは幸せでもありリフレッシュになります。仕事とプライベートの切り替えを大切にしています。



土木施工管理技士 へのステップ

土木施工管理技士になる一般的な道は、工業高校や専門学校で土木を学び、建設会社に就職する進路です。現場で経験を積みながら資格を取得し、少しずつ任される仕事が増えていきます。普通科など、別の進路から目指すこともできます。

新人

工事全体の流れを経験し、作業工程や安全対策の基礎を身につけます。



主任

工事の工程を自分で考え、判断し、安全に工事が進むよう、現場を任せられます。



現場所長

自分の考えた工程に作業員、重機をどのように配置するかといった全体工程計画をします。

管理職・役員

工程計画に予算を加え、工事全体の収支を管理します。会社の経営や事業全体を支えます。



K.S.さん 土木施工管理技士歴10年目

工業高校 工場に就職 土木施工管理技士へ

土木施工管理技士を選んだ

志望動機 きっかけ

工場勤務に就職をしましたが、完成形が見えず、仕事の手応えを感じにくいことに悩みました。道路や構造物として形に残る建設の仕事を知り、自分の仕事が目に見える点に魅力を感じて転職を決めました。

入社後 成長のきっかけ

入社当初は現場の専門用語が分からず苦労しました。工業学校で溶接やフォークリフトなどの資格を取得していましたが、実際の現場では戸惑うことも多くありました。それでも「分からないことは聞こう」と決め、先輩に質問するようになってから理解が一気に進みました。経験を重ねるうちに判断力も身につけ、今では大きな現場を任せられるようになりました。

先輩にも 聞きました!

土木施工管理技士歴
28年目

K.S.さん



土木施工管理技士の やりがい 仕事の喜び

土木現場では、天気や地盤の変化など、想定外が起こります。そんなとき、自分の経験だけに頼らず、現場にいる職人や若手の声に耳を傾け、状況を整理し、全員で同じ方向を向くことが大切です。若手メンバーだけで現場をまとめ、互いに声を掛け合いながら工事をやり遂げた時には、チームとして成長した手応えを感じました。完成後に住民の方から「きれいになってくれてありがとう」と声をかけてもらえる瞬間に、人をまとめる仕事のやりがいを実感します。

メッセージ 完璧じゃなくていい、道はあとからつくれる

自分は学生時代勉強が好きではなく、数学も苦手でした。入社直後は基本的なことが分からず悩んだこともあります。それでも今は、難しい図面を読み、計算をしながら現場を任せられる仕事をしています。やりたいことは、最初から決まっていなくても大丈夫。途中で選び直してもいいし、興味は後から育ちます。人に止められても、「やってみたい」という気持ちを信じて、一歩踏み出してみましょう。

